

<東大阪市>

1. 学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

- ・WIN書庫を活用した学校図書館蔵書管理システムの運用
- ・小学校における、公立図書館との連携

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

市教育研究会に東大阪市立小・中学校図書館教育研究会がある。小学校、中学校それぞれの総会・研修会・読書感想文(感想画)審査会を実施した。

3. 図書館教育研究会の活動について

◎小学校 総会および講演会

「子どもの読書活動の現状と充実をめざして」

講師：東大阪市教育委員会 指導主事

◎中学校 総会および研修会

「図書館教育における小中一貫教育について」

講師：東大阪市教育委員会 指導主事

◎学校図書館夏季セミナー、府学校図書館研究会、府市合同学校図書館研究集会等への参加

◎読書感想文合同審査会(小・中学校)

◎令和元年度 読書感想文応募作品数

- ・読書感想文代表作品決定

○9月 小学校読書感想文コンクール審査会 応募総数9334作品

(低学年) 自由読書 1889、課題読書 326

(中学年) 自由読書 3042、課題読書 307

(高学年) 自由読書 3449、課題読書 321

○9月 中学校読書感想文東大阪市審査会

25校の図書館教育担当者による合同審査会 応募総数7764作品

自由読書 7537、課題読書 227

◎小学校教科研究会B授業研究会

「ビブリオトークをしよう」(4年生)

指導・助言：東大阪市教育委員会 指導主事

4. 学校図書館の蔵書管理方法について

市立全小中学校でデータベース化し、バーコードによる貸出。

<柏原市>

1. 学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

- ・読み聞かせのボランティア派遣 年間10回程度
- ・柏原市立図書館との連携 図書館司書による出前授業
- ・ブックトーク
- ・本の修理講座
- ・図書館のお話
- ・放課後子ども教室での読み聞かせ

2. 学校図書館関係の組織形態と活動について

- ・市教育研究会に図書館教育部会がある。月1回、小中の担当者が集まり、会議や交流会、読書感想文関連の作業、研修等を行った。

3. 図書館教育研究会の具体的な活動について

・読書感想文審査会

《小学校》 2010作品

低学年 自由図書 160 課題図書 91

中学年 自由図書 587 課題図書 205

高学年 自由図書 815 課題図書 152

《中学校》 795作品

自由図書 765 課題図書 30

・読書感想画

読書感想画については、応募がなかった。

・小中交流会

ディスプレイの方法、整理の仕方、読書活動の活性化、市図書館との連携などについて各校の取り組みを紹介。

・講習会

柏原図書館より、本の修繕方法などについての講習会をしてもらった。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・図書原簿(契約時点で書店がデータ作成)による。
- ・データ管理をしている学校もある。

<八尾市>

1. 学校図書館に関する具体的方策や行政からのサポートについて

- ・各小学校に週 16 時間、中学校には週 8 時間、図書館サポーターが配置されている。
- ・市立図書館からの長・短期貸し出しを利用してきており、また、市立図書館図書ネットによる検索、予約、新着図書の紹介など、連携を進めている最中である。

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・市教育研究会に学校図書部会があり、各小中学校から代表が集まり、会議、読書感想文選定、実践報告、研修会と 1 年間に数回行っている。

3. 学校図書館の具体的な活動について

- ・読書感想文審査会
《小学校》 2 7 3 7 作品
低学年 自由図書 268 課題図書 98
中学年 自由図書 960 課題図書 160
高学年 自由図書 1138 課題図書 113
《中学校》 2 2 5 作品
自由図書 219 課題図書 6
- ・読書感想画
募集せず。

【用和小学校による授業・実践報告】

用和小学校図書部では、『読書と教科学習を両立させる学校図書館づくり』をめざし、児童の読書の質と量の向上と課題を解決するための教科学習で活用したり調べ学習で活用したりすることで、機能的且つ効果的な学校図書館の活用を考えている。

単元名「ようこそ、椋鳩十ミュージアムへ」
～みんなが使える学校図書館～

学習材

「大造じいさんとがん」(光村図書 5・東京書籍 5)
「片耳の大鹿」椋鳩十著

(単元について)

国語科の文学的文章「大造じいさんとがん」の

「読むこと」において、表現の工夫や作者の考え方へ焦点を当てて読み進めていくことで、椋鳩十の人物像を明らかにし、学習を展開していく。単元の終末には、作者の別の作品や生い立ち、作品の魅力について紹介するコーナーを各クラスが制作してできる「椋鳩十ミュージアム」を学校図書館内に製作し、学んだことを実生活に生かす体験から学習者の今後の作者と作品の理解に役立てていきたい。

(学級の子どもたちへの読書に関する取り組み)

①初めての^{うちどく}家読

読書週間を決め、家族で 20 分間読書をする。読んだ本は読書ノートに記録する。

②初めての読み聞かせ

紹介したい本をみんなに読み聞かせする。聞いた人は、短いメッセージを書いて渡す。読み聞かせをした人は次の人を指名する。

③初めての集団読書

クラス全員が同じ本を一斉に読む。読んだ感想を話し合う。

④椋鳩十の並行読書

作者のイメージは、作品のイメージが大きく影響するので、数多くの作品を読むことが、作者を知る手掛かりとなる。

(学校全体での主な取り組み)

①読書ノートを作成し、読んだら感想を書き、子どもたちで記録していく。

②夏休みの学校図書館開放

③全学年での音読交流会、低学年への読み聞かせ

④毎水曜日の朝読(10分間) 音楽を流し教師も一緒に

⑤教室名を「図書室」から「学校図書館」へ変更 子どもたちが使いやすい(読むだけではなく調べやすい)ように、書架の配置換えを行った。

⑥年間指導計画の中から、学校図書館を利用できる単元をあらかじめ決め、準備を行う。

⑦調べ学習としての学校図書館づくりを目指す。

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・市の教育サポートセンターが管轄し、各学校の蔵書をデータベース化し、バーコードによる貸し出し業務を行っている。